

第1回 BTS 人気、もはや世界の研究対象 K 躍進のきっかけは

2021 年 5 月 22 日 11 時 30 分



韓国から日本、アジア、そして世界的な現象となった「K-POP」。韓国の 7 人組アイドルグループ BTS(防弾少年団)が今年、米音楽界で最高の栄誉とされる「グラミー賞」にノミネートされたのは、その象徴的なシーンでもあった。

欧米の最新のトレンドを積極的に取り入れ、ソーシャルメディアで世界中のファンから声が届き、メンバーは多国籍化——。KOREA(韓国)の頭文字「K」は、顔ぶれも、ファンの裾野の広がりも、国境を軽々と超えつつある。「K」はどんな旅を続けてきたのだろう。そして、どこへ向かうのだろう。ブームの舞台の一つである日本人たちの視点から、軌跡をたどってみたい。

「No matter who you are, where you're from, your skin colour, gender identity: speak yourself (あなたが誰なのか、どこから来たのか、肌の色やジェンダー意識は関係ありません。ただ、あなたのことを話してください)」



国連児童基金(ユニセフ)の会合で演説する BTS のリー

ダー、RM さん(中央)=2018 年 9 月、米ニューヨーク国連本部、タマラ・エルワイリー撮影

2018 年 9 月、国連本部。BTS のリーダー、RM さんが若者たちに向けてスピーチをした。他人の目を気にすることなく、自分自身を好きになってほしい——。そんなメッセージが世界中の人々の共感を呼んだ。

翻訳家が気づいた BTS の「吸引力」

韓国カルチャーに詳しいライターで翻訳家の桑畑優香さんは、このスピーチを聞いて感じた。「**このアーティストが持つ吸引力は、他の人たちとは違う**」

BTS は韓国で、「防弾少年団(バンタンソニョンドン)」として 13 年にデビューした後、翌年、日本に進出し、日本語の曲を歌った。日本でなじみのある他の K-POP アーティストと似た道を行ってきたかに見えた。しかし、桑畑さんは RM さんの言葉に、「世界を動かす器だ」と感じ取ったという。スピーチを投稿した国連児童基金(ユニセフ)のツイッターには、いろいろな言語で自身の生い立ちや心情、悩みを語る若者のコメントがあふれた。

歌唱力やダンスの技術、ルックスなど、BTS の人気の理由はさまざまに挙げられてきたが、桑畑さんが注目するのは歌詞だ。

19 年 10 月、サウジアラビアの首都リヤドのスタジアムで BTS がコンサートを開催した時のこと。サウジアラビア人の女性ファンのツイートが目に入った。「He is a real human being. I AM DYIINNGG(彼はリアルな人間だったの。私、もう死にそう)」。リヤドに住む 21 歳の学生が空港に BTS を迎えに行き、「推し」を目撃した興奮をつづっていた。

桑畑さんがツイッターを通じ、何に一番ひかれているのか聞くと、その女性ファンは「勉強や人生がつらく感じる時、彼らの曲を聴くと元気になる」。別の 18 歳の女性も同じ質問に「個人的に苦しいことがあった時期だったけど、何度も彼らの歌に救われた」と語った。

「歌詞の内容に救われたと、別々に取材した 2 人が同じように話した。アルバム名などに『Love yourself』という象徴的な言葉が繰り返し使われているが、BTS の歌には普遍的なメッセージがあり、彼女たちの心に響いているんだと思った」と桑畑さん。



米ニューヨークのセントラルパークで 2019 年 5 月、ABC のテレビ番組「グッド・モーニング・アメリカ」に出演した BTS のメンバー=ロイター

そのころ、BTS の歌詞は世界中のファンによって英語に限らず様々な言語に翻訳され、SNS で広がっていた。サウジの 2 人も、SNS で歌詞を知った中の一人だった。「昔と違い、今は翻訳ソフトを使えばワンクリックで訳せる。彼らが発信していた若者の共感を呼ぶメッセージが時代の流れに乗って、どんどん拡散していった面は大きいと思う」。20 年にリリースした「Dynamite (ダイナマイト)」で、米ビルボードシングルチャート初登場 1 位、グラミー賞の「最優秀ポップ・デュオ/グループ・パフォーマンス部門」へのノミネートなど、瞬く間に相次いで歴史を塗り替えていった。

BTS 人気はもはや、学術的な研究対象になっている。20 年 1 月、イギリスのキングストン大学で開かれたのは「BTS 学会」。世界 20 カ国以上から社会学、経済学、文学、音楽といった幅広い分野の研究者や学生が 140 人以上、参加し、BTS についての研究内容を発表し、語り合ったという。桑畑さんもイギリスに飛んでこの会議に出席した。「なぜ世界で人気なのか、本当に人気なのかを知りたくて」

「BTS と教育学」「BTS の歌詞の文化的側面」「BTS が健康や福祉に与える影響についての研究」——。発表内容には多彩なテーマが並ぶ。参加者は韓国やアメリカ、イギリスのほか、メキシコやスロベニア、ハンガリーなど世界中から集まった。日本のアニメが好きで YouTube を見ていたとき、BTS の動画が「オススメ動画」として表示され、見ているうちにダンスなどに魅了されたという声もあったという。



米ニューヨークのセントラルパークで 2019 年 5 月、ABC のテレビ番組「グッド・モーニング・アメリカ」に出演した BTS のメンバー=ロイター

アジアの一国の音楽から世界の K-POP へ。「BTS への系譜」は、どんな軌跡をたどったのか。

草の根の音楽交流、耐えた逆境

1992 年に登場した男性ヒップホップグループ「ソテジワアイドル」を桑畑さんは源流に挙げる。バラードや演歌が主流だった韓国の音楽シーンを、ラップを取り入れたダンス系音楽で一変させた。

これを機に、韓国ではライブハウスを拠点とするインディーズバンドが増えたという。日本ではまだ主流ではなかった韓国音楽ファンや在日コリアンの団体が、韓国のバンドを招いてコンサートを開くなど、日本でもひっそりと人気を集め始め、草の根の日韓音楽交流の礎となった。その後、98

年に日本でもデビューした3人組の女性グループ「S.E.S.」など、ダンス系アイドルユニットが主流になっていった。

日本でK-POPが定着した始まりは、ソロ歌手として日本で成功したBoAさんの登場だとみる。桑畑さんは「K-POPの主流となったダンス系の音楽を軸にしつつも、日本人がプロデュースして日本語で歌ったことが大きかった。歌って踊れるクールな女性というイメージが、安室奈美恵さんらが流行していた当時の日本人の感性にも合っていた」と分析する。

その後、03年の韓国ドラマ「冬のソナタ」をきっかけとした第1次韓流ブームをへて、男性グループとして日本市場を切り開いた「東方神起」(05年日本デビュー)、「BIGBANG」(09年日本デビュー)、女性アイドルグループブームを巻き起こした「KARA」「少女時代」(いずれも10年日本デビュー)などのブレイクへとつながっていく。K-POPは、まず日本から存在感を高めていった。

しかし12年、韓国の李明博(イミョンバク)大統領(当時)が竹島に上陸して以降、日韓関係は急激に悪化した。日本から韓国を訪れる観光客は大きく減り、テレビの地上波からK-POPアーティストの姿は消えた。

桑畑さんによると、このころはまだ、タイなど東南アジアや中華圏の一部にも進出していたものの、K-POP市場の多くを占めるのは日本だった。当時、韓国の芸能事務所関係者に「嫌韓が広がり、音楽番組にも出られない中で、今後日本に来る意味はあるのか」と聞くと、「日本市場は非常に魅力的で、ファンも実はたくさんいるし、アタックを続けたい」「他のグループも日本市場は諦めないと思いますよ」と話したという。

その言葉どおり、日本でのコンサート活動は続き、YouTubeやツイッターの普及も相まって、地上波に出られなくても水面下でファンを増やし続けた。韓国で流行していたオーディション番組が日本でもSNSで話題になり、そのキャラクター性やファッションも注目された。そうしたさなかの14年に日本デビューしたBTSも、しばらく同様の時期を過ごした。

そして17年、新たな波が訪れる。

あえて「日本人起用」 飛翔のきっかけに

きっかけは、韓国・日本・台湾出身のメンバー9人からなる多国籍ガールズグループ「TWICE」の登場だった。後に「縄跳びダンス」でSNSを席巻した「NiziU(ニジュー)」旋風を巻き起こすJ.Y.Park(パク・ジニョン)さんがプロデュースし、17年に日本でデビュー。K-POPを「地上」へと引き戻した。桑畑さんは背景に「日本人の起用」を挙げる。「日韓関係が深刻な時期に、それをものともせず日本人をキャスティングした。ファッション誌も取り上げやすかったし、あのような時期にもかかわらず、テレビにも出やすかったのだろう」

この波に乗り、BTSはこの年、日本の地上波ゴールデンタイムの音楽番組への出演も果たした。日本で収益を上げつつ、SNSを積極的に使ったプロモーションを展開。17年には世界的歌手ジャスティン・ビーバーさんを抑え、米ビルボード・ミュージック・アワードで、ソーシャルメディアで最

も影響力があったアーティストに贈られる「トップ・ソーシャル・アーティスト」賞も受賞した。受賞は20年まで4年連続で続き、今年も再びノミネートされている。

かつてない高みへと登り詰めつつある BTS、K-POP だが、桑畑さんは心配な点も挙げる。韓国の男性には通常 18 カ月以上の兵役の義務があり、BTS のメンバーにも入隊期限が迫っている。入隊すれば少なくとも 1 年半は芸能活動ができなくなる。「今後の戦略、見通しがどう左右されるのか。兵役が一つのカギになる」

一方で、今年の「トップ・ソーシャル・アーティスト」賞には、同じく韓国のボーイズグループ「SEVENTEEN」やガールズグループ「BLACKPINK」もノミネートされた。桑畑さんは「世界市場を狙えるアーティストは熟成されているし、道もできている。しばらくは勢いは続くだろう」とみる。

こうして、世界中で多くのファンの「日常」となった K-POP。日本でも、幼い頃からそうした日常を過ごしてきた「K-POP ネイティブ世代」には、韓国デビューを目指して海を渡る人も少なくない。実際にその夢を実現したアーティスト 2 人に、その理由をたずねた。(大部俊哉)

連載「K」の軌跡(全 5 回)

- 第 1 回(今読んでいる記事) BTS 人気、もはや世界の研究対象 K 躍進のきっかけは
2021 年 05 月 22 日 11 時 30 分🔒



- 第 2 回「TWICE」に憧れ 東京から韓国へ、そしてデビュー
2021 年 05 月 23 日 09 時 30 分🔒

•

グラミー賞逃しても…「BTS 現象」はなぜ止まらないか

